

まとめ

テーマB:「主体的・対話的で深い学び」

協議題 「移行期間に学校及び研究所・センターが
取り組むこと」

主体的・対話的で深い学び

■主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

■対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

■深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。



知識・技能が目的や価値、手応えとつながる

学びを人世や
社会に生かす

学びに向かう力
人間性等

「深い学び」とは、知識・技能が関連付いて構造化されたり
身体化されたりして高度化し、駆動する状態に向かうこと



知識・技能

生きて働く

思考力・判断力・表現力等

知識・技能が相互につながる
(空間・時間)

未知の状況で
活用できる

知識・技能が場面や状況とつながる



独立行政法人教職員支援機構

「主体的・対話的で深い学び」を促進する教師力

- 1 : 子どもの姿や発言を丁寧に見る、聞く (捉える)
- 2 : 子どもの思いや考えを理解する (解釈する)
- 3 : 本時のねらいとの関係を考える (照合する)
- 4 : どのように振る舞うかを決める (判断する)
- 5 : 分かりやすく板書したり、端的に発問したりする
(振る舞う)

上川教育研修センター
「深い学びで目指す4つの姿
を実現する単元構成の視点」

石狩教育研修センター
考え、議論する道徳
「問い返し、揺さぶり等」

掲載日：平成30年5月2日

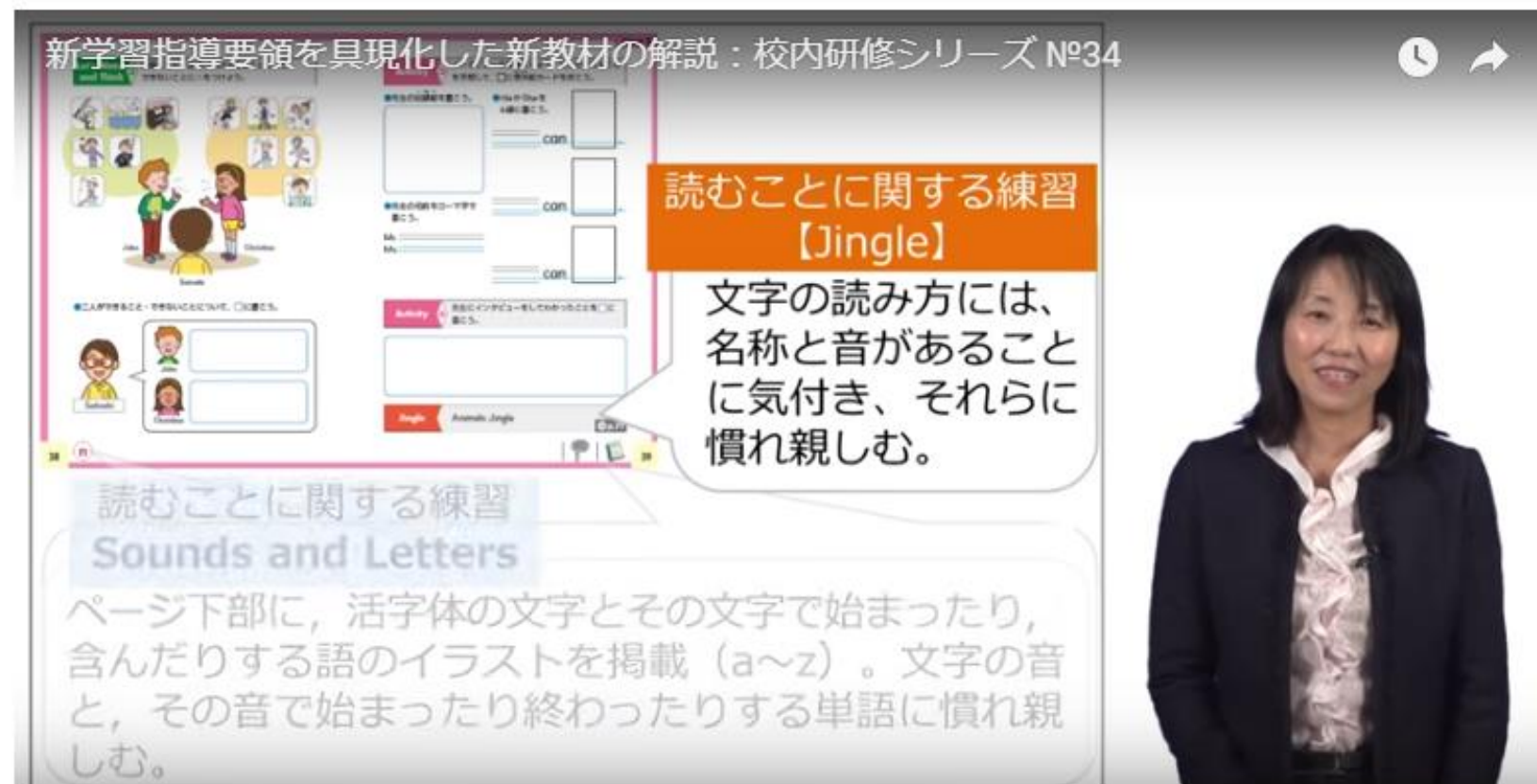
校内研修シリーズ

新学習指導要領を具現化した新教材の解説：校内 研修シリーズ No34

ツイート

シェア

新学習指導要領を具現化した新教材の解説：校内研修シリーズ No34



読むことに関する練習
【Jingle】

文字の読み方には、
名称と音があること
に気付き、それらに
慣れ親しむ。

読むことに関する練習
Sounds and Letters

ページ下部に、活字体の文字とその文字で始まったり、
含んだりする語のイラストを掲載（a～z）。文字の音
と、その音で始まったり終わったりする単語に慣れ親
しむ。

校内研修シリーズ

新学習指導要領編（校内
研修シリーズ）

研修プランシリーズ

実施研修動画

DVD教材

研修テキスト

サポートナビ

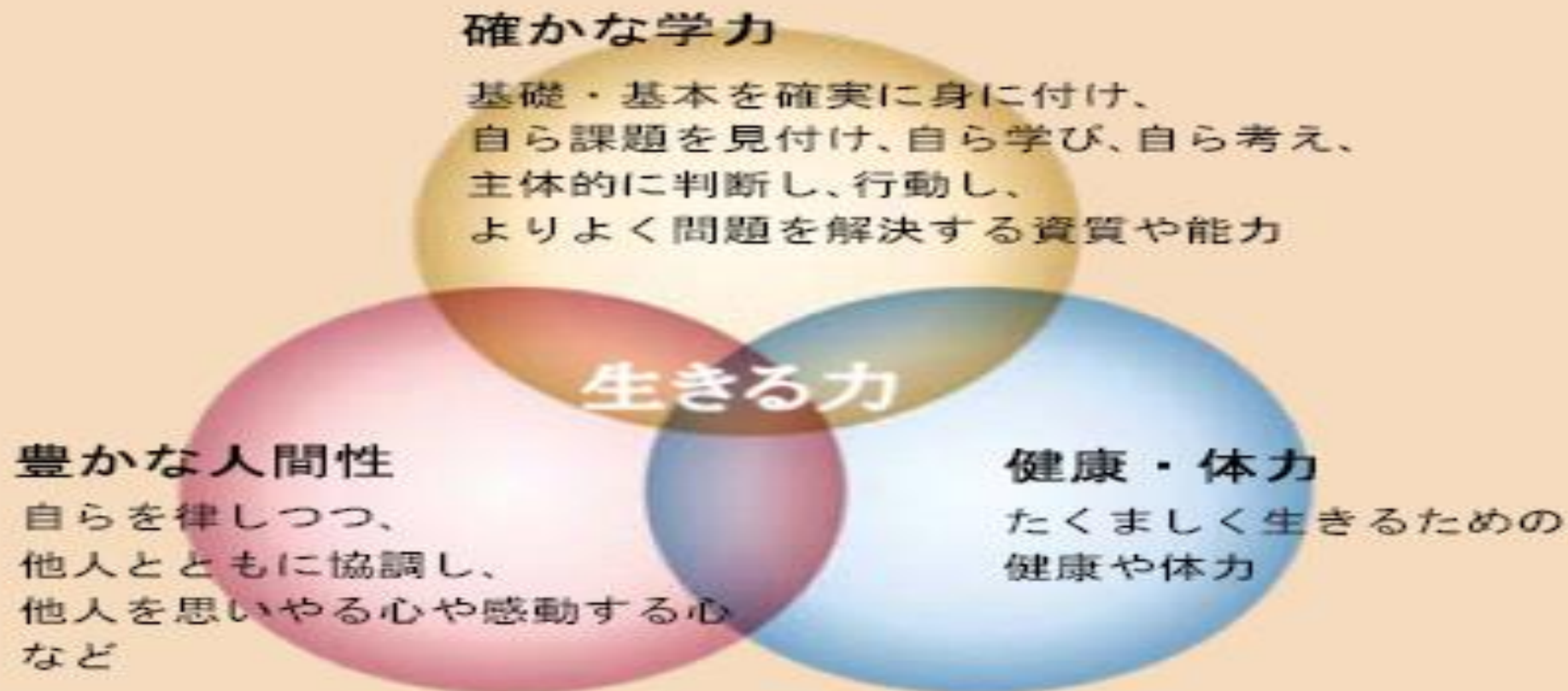
研修を受ける方

研修を修了した方

現行学習指導要領についての検証

学習指導要領の理念－「生きる力」

学習指導要領の理念は「生きる力」、
それは、知・徳・体のバランスのとれた力のことです



思考力・判断力・表現力を育みます

言語の力を使って、子どもたちの思考力・判断力・表現力などを育みます。

例えば、

- 経験したことを記録・報告する活動や、相手を説得するために意見を述べ合う活動を進めます（国語）
- 社会的な事柄について、資料を読み取り解釈し、考えたことを説明したり、自分の意見をまとめた上で、他の子どもと意見交換したりする活動を進めます（社会）
- 仮説を立てて観察や実験を行い、結果を分析・解釈する活動や、日常生活での出来事を科学的な言葉を使って説明する活動を進めます（理科）

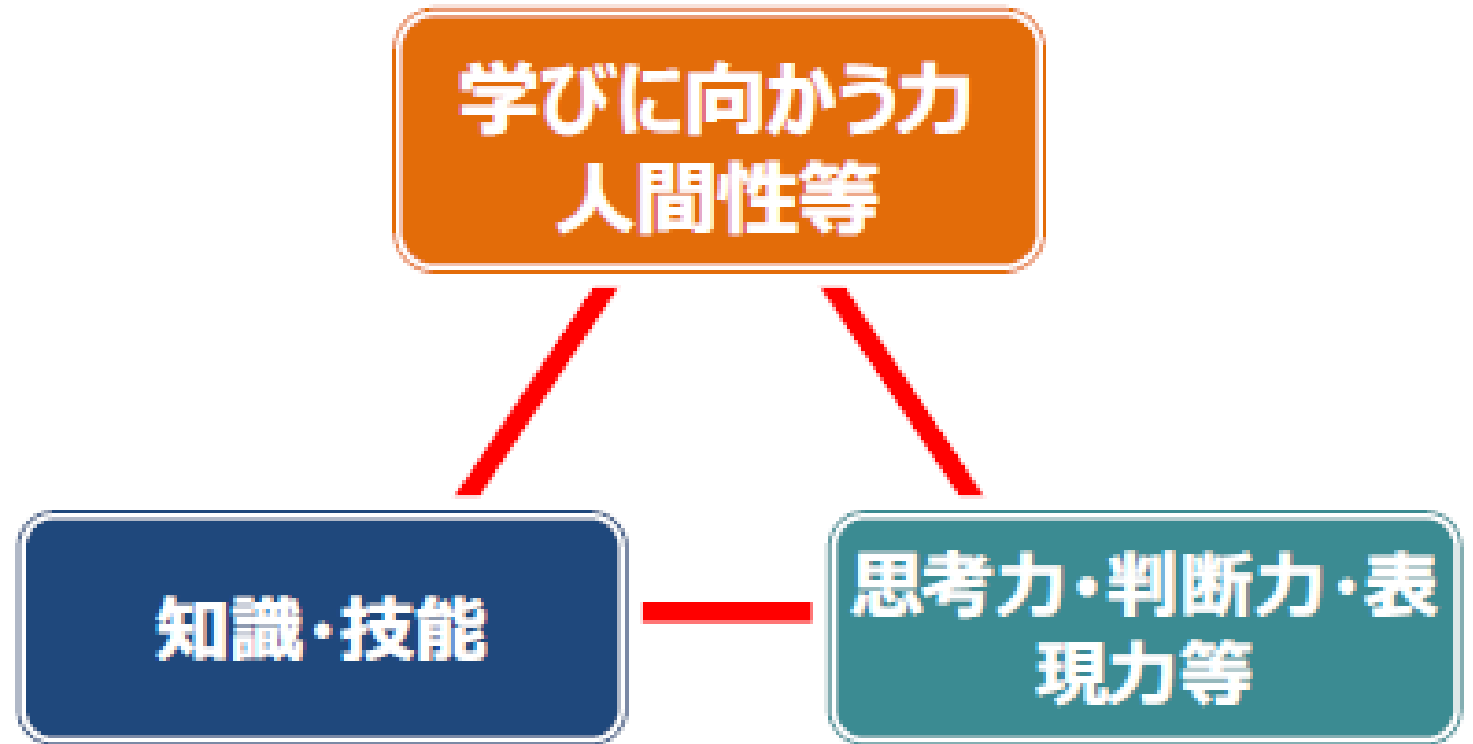
渋谷調査官の講演

「自分なりに、
『例えば』で表現して
みると……」

→「イメージできるこ
とが大切」

（前回の移行期間の
際には……）

育成を目指す資質・能力の三つの柱



◆ 教育課程実施上の配慮事項 ◆

- 児童生徒の言語環境の整備と言語活動の充実
- 見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動の重視

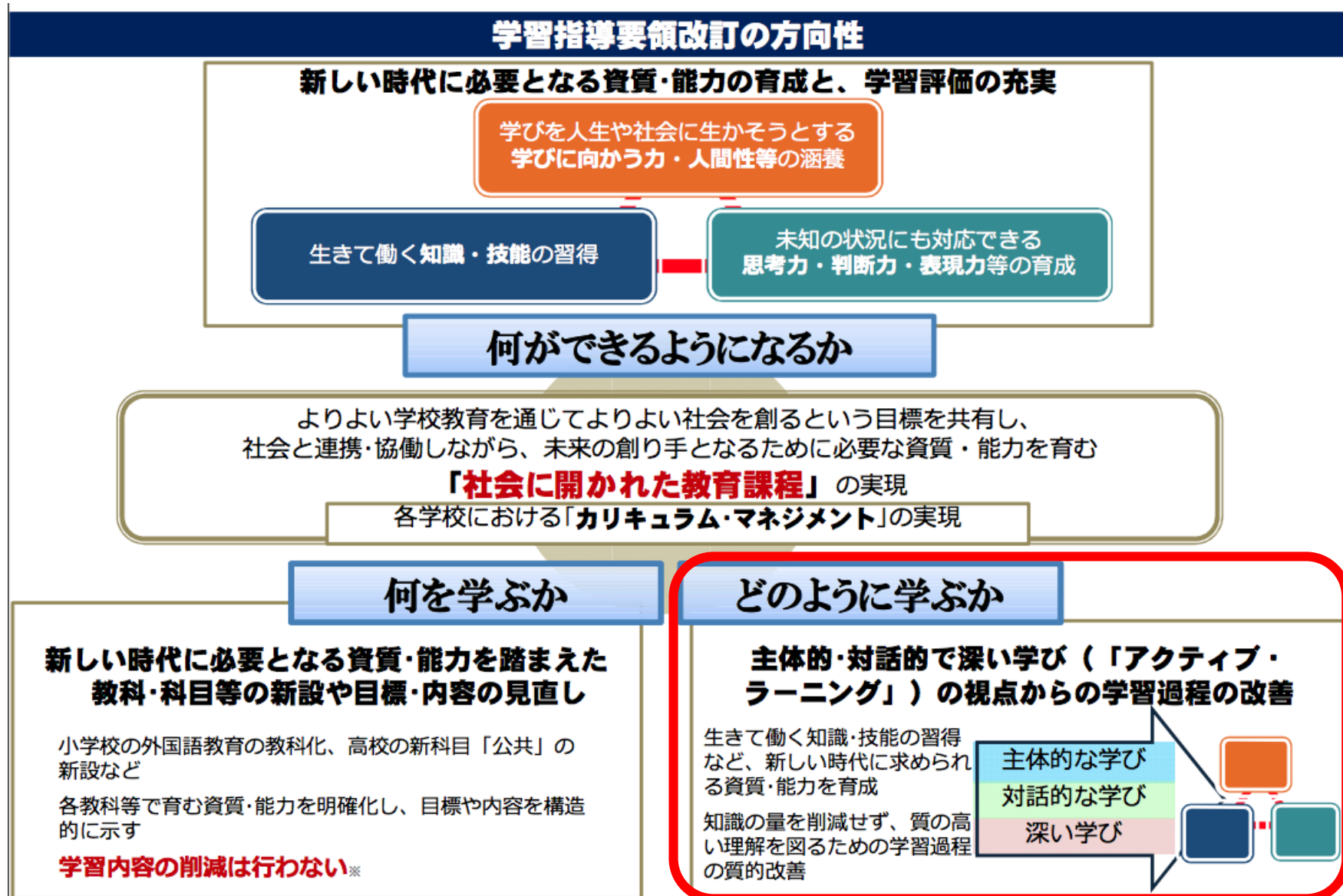
(※ メタ認知)

◆新学習指導要領改訂の趣旨◆

2030年の社会と子供たちの未来

- 65歳以上の高齢者の割合の増加（2030年には総人口の3割）
- 生産人口の減少（2030年：現在の約8割、2050年：現在の約半数）
- 子どもたちの65%は将来、今は存在していない職業に就く。（キャシー・デビッドソン）
- 今後10年～20年程度で半数近くの仕事が自動化される可能性が高い。（マイケル・オズボーン）
- 2045年には、「シンギュラリティ」に到達する（人工知能が人類を越える）という指摘もある。

今後、より一層の授業改善が求められる背景



主体的・対話的で深い学びの実現 （「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

【例】

- ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- ・ 「キャリア・パスポート（仮称）」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする



主体的な学び
対話的な学び
深い学び

学びを人生や社会に
生かそうとする
**学びに向かう力・
人間性等の涵養**

生きて働く
**知識・技能の
習得**

未知の状況にも
対応できる
**思考力・判断力・表現力
等の育成**



【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【例】

- ・ 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広げる
- ・ あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
- ・ 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る



【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

【例】

- ・ 事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- ・ 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく
- ・ 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく